



彼らはそれで飯を食って
いるんだよ」といって君

「どうしてさ」

ファックス用紙も裏表で二回使用する
し、下手をすればメモ用紙でさえそす
る。

自分ではこの行動を吝嗇ゆえとは思わ
ない。
なせなら、二十代前半のある日を境に
して、私はそのように紙を大事に扱っ
ようになったからである。

その頃、私はある出版社の編集部配
属されていた。またファックスさえ導入
されていなかった若者向け雑誌の編集部
は、数多くのライターや取材売り込み
に来るレコード会社の宣伝マンやカメラ
マンたちの集まる巣窟めいた場所であ
った。
新入社員の私にもいくばくかのペー
ジが与えられていたから、なかなか締め切
り通りに書かないライターに付き合

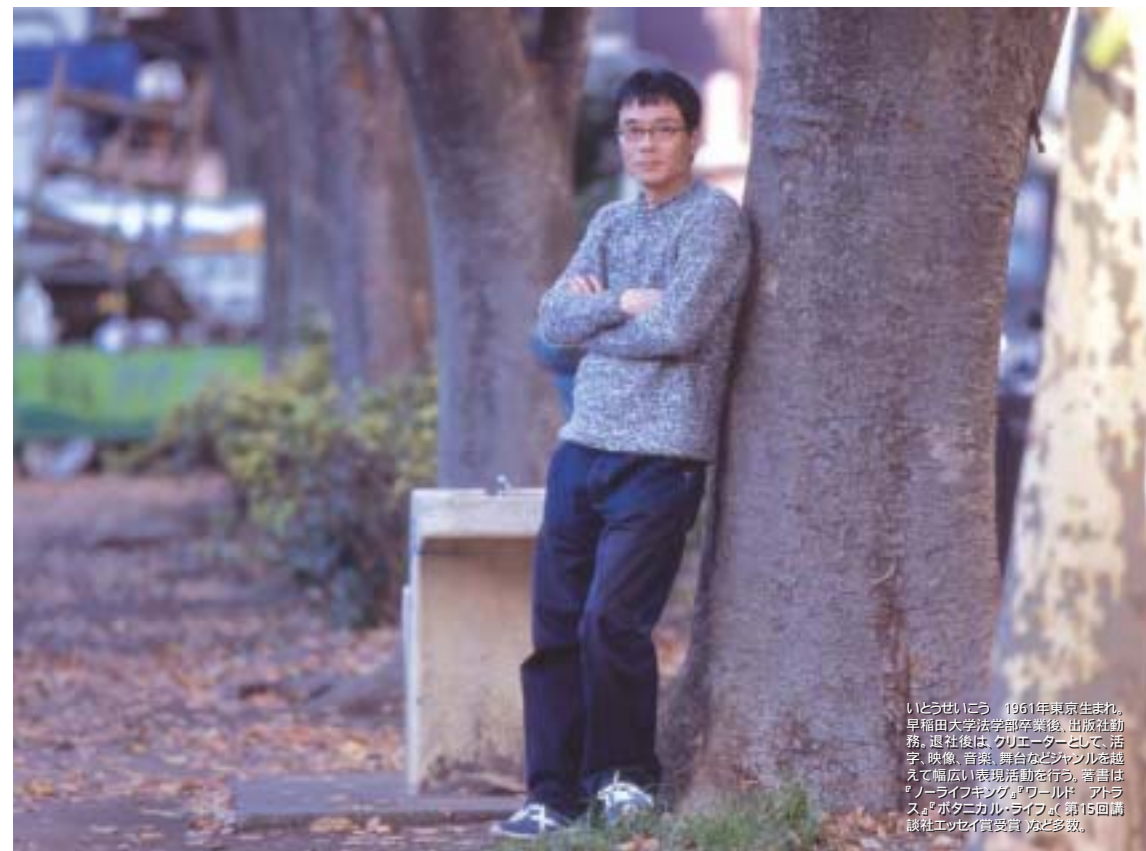
夜半まで編集部にいるのが常だったこと
を思い出す。

私には、「指導社員」と呼ばれる先輩が
いた。年齢的にはひと回りほど上だっ
た。ともかく会社の方針として、新
入社員には必ず指導者が付き、編集の
ノウハウはもちろんだが、酒席でのマ
ナーやら経費の精算方法までを細かく教
えてくれるシステムであった。

私の指導社員は本当に温厚な人で、ほ
とんどのことをやりたいうようにやらせて
くれた。多少の失敗が予見出来ても何も
言わず、雑誌が出来上がったから、「い
と君、ここはもう少し写真を大きくする
べきだったんじゃないかな？ そっ
うしたら、伝えたいことがもっと明確にな
ったはずでしょう」と、やんわりと
指導をしてくれていたものだ。

そのKさんがある日、厳しい口調で私
に意見を述べたことがある。それは雑誌業
界で「ペラ」と呼ぶ二頁字詰め原稿用紙
を、私がたまたま行ほどのメモに使っ
ては捨てていたことに対する叱責なのであ
った。Kさんは言った

「いとう君にとって編集部にいくらで
もあるただの紙の束かもしれないけど



いとうせいこう 1961年東京生まれ。早稲田大学法学部卒業後、出版社勤務。退社後は、クリエイターとして、活字、映像、音楽、舞台などジャンルを越えて幅広い表現活動を行う。著書は『ノーライフキング』『ワールド・アトラス』『ポタニカル・ライフ』(第15回講談社エッセイ賞受賞)など多数。

ね、ライターはそのペラで飯を食って
るんだよ。一枚いくらという世界に生きて
いるその紙は、彼らの生活がかかった
商売道具なんだよ。今、君がしている
ことは彼らに失礼だ。それがわからないよ
うじゃ、編集者失格だからね。

これはこたえた。思いもよらない考え
方だったからだし、それまで捨てていた
ペラの枚数にぞっとしたのである。
以来、私は紙をただの紙だとは考えな
くなくなった。それは書く者にとって表現の
基盤であり、生活の土台なのだと思うよ
うになったのだ。

昔、最初に書いた小説めいたもの
『ノーライフキング』といつは、まさに
このペラで書いた。いかにも作家らし
い四百字詰め原稿用紙ではなく、編集部
から持ち帰っていたライター用の二頁字
詰め原稿用紙で、私は処女作を書いたの
である。

それは先輩の意見に対する誠心誠意の
謝罪の意味も持っていたのではないかと
今気づかされる。

PAPER Q&A Vol.10

Q. RPFって何ですか？

A. 再生困難な古紙と廃プラスチックを原料とした新しい固形燃料です。

製紙原料以外の分野でも利用が進む古紙。再生困難な古紙を燃料として再生するサーマルリサイクルがクリーンエネルギーとして注目されています。写真のRPF(Refuse Paper & Plastic Fuel)は、紙とプラスチックの廃棄物を混合破砕しペレット状に成型したものです。発熱量は約7,000kcal/kgと輸入石炭並み。その配合比率を変えるこ

とで自由に熱量が設定できるメリットもあります。
プラスチックと紙の比率を50:50にした場合の発熱量。



新たに注目されている固形燃料RPF



次回は3月3日号、齋藤孝さんです。

提供 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo : Yohei Maruyama